

ライフマップ

ID

氏名

区分		出生前	乳児期	幼児前期	幼児後期	学童期前期	学童後期	思春期(中学生)	思春期(高校生)	青年期	成人期(社会人)			
年齢			0～12ヵ月	1～3歳	3歳～6歳	6歳～9歳	10歳～12歳	12歳～15歳	15歳～18歳	18歳～(22歳)	(18歳～)22歳～			
発達の特徴			基本的信頼関係の獲得 愛着の形成	基本的信頼関係の獲得 愛着の形成 基本的生活習慣の獲得 自分の感情や意思を表現する	基本的信頼関係の獲得 基本的生活習慣の獲得 自発性の獲得 他者の受容と自己肯定感の芽生え	集団や社会の中の自分を意識する 集団や社会のルールや規範を意識し、行動する 勤勉性、フラストレーション耐性、自制心の育成	自分を客観視できるようになる 自他の尊重、自己肯定感の育成 家庭以外の仲間と集団をつくり行動する 他者との違いを認識し劣等感をもち(9歳の壁)	「自分」とは何か、自己をみつめ葛藤し自分の生き方を模索する 大人より、同年代との関係を好む 親からの心理的自立がすすむ 心体の変化、性への興味、理解	自己評価、自我同一性を獲得 自己肯定感の生育 親からの心理的自立が加速 性への理解がすすむ	「自分」を確立し、自己決定ができる 自分の将来について目標が明確になる 親からの社会的自立がすすむ	自分に対して責任をもつ 社会への参加			
支援開始時期				保育園(幼稚園)入園前	小学校入学前		10歳(1/2成人式)で移行期支援開始(全体でアセスメント)	全体でアセスメント	就職/進学前/一人暮らし前(全体でアセスメント)	一人暮らし前	結婚前			
公的支援制度	公的支援	医療保険	小児慢性特定疾病医療費助成、自立支援医療(育成医療)、指定難病医療費助成、乳幼児/子ども医療費助成、身体障害者手帳、療育手帳、特別児童扶養手当等)						更生医療、指定難病医療費助成、身体障害者手帳、療育手帳、障害基礎年金等					
本人の目標	病気/治療に関連						☐ 自立支援について理解をはじめる		☐ 成人期の病院、支援体制などの情報収集をはじめる	☐ 成人期の問題を理解し、成人期医療への準備をする	☐ 成人期の支援制度を利用			
									☐ 成人期に通院する病院について本人と相談する	☐ 公的支援が可能であるか確認し、医療補助、公的支援の申請などを本人と準備する				
	受療行動			☐ 医療行為が恐怖体験とならない	☐ 自分の身体、体調に関心をもつ	☐ 自分の体のどの部分に病気があるかわかる	☐ 病名、身体仕組みを理解する、簡単に説明ができる	☐ 病名、病状がわかり、説明できる	☐ 病名、病態を理解し、説明できる。	☐ 疾患・病態について正しく理解できる	☐ 疾患を理解し、説明、自分の意見をいえる			
				☐ 嫌がらずに受診できる		☐ 治療や薬について簡単に説明できる	☐ 自分の病名を答えることができる	☐ 治療内容がわかり、説明できる	☐ 治療や薬の内容を理解し、説明できる。	☐ 治療について説明、意見がのべられる	☐ 妊娠出産について情報収集する			
						☐ 自分のバイタルサインを知る	☐ 自分のバイタルサインがわかり測定できる	☐ 自分のバイタルサインがわかり測定できる。	☐ 今後起こり得ることや今後の治療方針を確認している					
						☐ 治療や薬について内容が簡単にわかる	☐ 処方薬の名前・用法・効果・副作用がわかる	☐ 処方薬の名前・用法。効果・副作用・禁忌がわかり、自己管理できる						
				☐ 体調をうったえることができる	☐ 体調不良がわかり、周囲の大人に訴えることができる	☐ 体調不良がわかり、友人や周囲の人にうったえることができる	☐ 体調不良がわかり、対応ができる	☐ 体調不良時の対応ができる。						
				☐ 基本的生活習慣を身につける	☐ 基本的生活習慣を身につける	☐ セルフケアを始める(服薬、自己注射、医療的ケア等)	☐ 飲み薬の管理・医療的ケア・自己注射など家族の支援のもとでできる	☐ 飲み薬の管理・医療的ケア・自己注射などが主体的にできる		☐ 飲み薬の管理・医療的ケア・自己注射などが1人でできる				
										☐ 必要な検査項目がわかる				
							☐ 医療者とコミュニケーションがとれる	☐ 医療者や家族に日常の様子や体調について話ができる		☐ 医療者に自身の体調や治療について話ができる	☐ 医療者と自身の体調や治療について意見をかわせる			
									☐ 医療者に気になっていることを質問できる					
										☐ 残薬がわかり、処方してほしい薬がわかる	☐ 診療情報の自己管理が主体的にできる	☐ 診療情報の自己管理ができる		
	☐ 病院受診、薬の受領などを養育者とともに計画実行する	☐ 病院受診、薬の受領などを養育者とともに計画実行する	☐ 病院受診、薬の受領などを主体的に計画実行する						☐ 病院受診、薬の受領などを自分で計画実行する					
	☐ 外来日を知っている。家族とともに外来日を決定できる		☐ 外来受診日の管理が主体的にできる		☐ 外来受診日の管理ができる									
				☐ 喫煙・飲酒・薬物乱用・人間関係・妊娠・出産・性の問題など気になることを家族または必要時医療者に相談することができる		☐ 喫煙・飲酒・薬物乱用・人間関係・妊娠・出産・性の問題など自分の病気と結びつけて考えることができ、家族または必要時医療者に相談することができる								
				社会とのかかわり		☐ 養育者との良好な関係	☐ 生活リズムの確立	☐ 集団生活になれる	☐ 集団生活のルールや約束がわかる	☐ 集団生活がおくれる	☐ 集団生活がおくれる	☐ 集団生活がおくれる	☐ 職業や将来の目標を明確にする	☐ 社会の一員として行動する
									☐ 自分と他者と同じところと違うところを感じる	☐ 自分と他者との違いを自覚する	☐ 自分と他者との違いを自覚し、両者とも尊重する	☐ 社会の一員としての将来を考え、情報収集する	☐ 成人としての自覚をもち、社会の一員として行動する	☐ 社会生活と受療行動の両立
							☐ 好きなことを見つける	☐ 成人期への社会との関わりについて考え始める		☐ 社会生活と受療行動の両立				

2024年11月20日作成

ライフマップ

ID

氏名

区分		出生前	乳児期	幼児前期	幼児後期	学童前期	学童後期	思春期(中学生)	思春期(高校生)	青年期	成人期(社会人)
年齢			0～12ヵ月	1～3歳	3歳～6歳	6歳～9歳	10歳～12歳	12歳～15歳	15歳～18歳	18歳～(22歳)	(18歳～)22歳～
発達の特徴			基本的信頼関係の獲得 愛着の形成	基本的信頼関係の獲得 愛着の形成 基本的生活習慣の獲得 自分の感情や意思を表現する	基本的信頼関係の獲得 基本的生活習慣の獲得 自発性の獲得 他者の受容と自己肯定感の芽生え	集団や社会の中の自分を意識する 集団や社会のルールや規範を意識し、行動する 勤勉性、フラストレーション耐性、自制心の育成	自分を客観視できるようになる 自他の尊重、自己肯定感の育成 家庭以外の仲間と集団をつくり行動する 他者との違いを認識し劣等感をもち(9歳の壁)	「自分」とは何か、自己をみつめ葛藤し自分の生き方を模索する 大人より、同年代との関係を好む 親からの心理的自立がすすむ 心体の変化、性への興味、理解	自己評価、自我同一性を獲得 自己肯定感の生育 親からの心理的自立が加速 性への理解がすすむ	「自分」を確立し、自己決定ができる 自分の将来について目標が明確になる 親からの社会的自立がすすむ	自分に対して責任をもつ 社会への参加
支援開始時期				保育園(幼稚園) 入園前	小学校入学前		10歳(1/2成人式)で移行期支援開始(全体でアセスメント)	全体でアセスメント	就職/進学前/一人暮らし前(全体でアセスメント)	一人暮らし前	結婚前
公的支援制度	公的支援	医療保険	小児慢性特定疾病医療費助成、自立支援医療(育成医療)、指定難病医療費助成、乳幼児/こども医療費助成、身体障害者手帳、療育手帳、特別児童扶養手当等)						更生医療、指定難病医療費助成、身体障害者手帳、療育手帳、障害基礎年金等		
家族の目標	病気/治療に関連	病児の存在を受け止める	☐ 療養全般の管理	☐ 療養全般の管理	☐ 療養全般の管理	☐ 子どもの病気、治療への認識を確認し説明・補足することができる	☐ 子どもと病気や体について話し合うことができる	☐ 思春期特有の反抗期にともなう療養行動の怠慢に注意する	☐ 本人が主体的に行う療養行動のサポート	☐ 支援者としてサポートし、見守る	☐ 支援者として見守る
			☐ こどもの子どもの病気を受け止める事ができる			☐ 療養行動を本人に任せていく覚悟ができる	☐ 家族から子どもに病名を伝える	☐ 子どもの言動や行動を見守り、基本は子どもへの自己管理に移行できる	☐ 療養において自己流や治療拒否の兆候がないか把握する		
			☐ 病児を受け入れる	☐ 病気について伝える努力をする	☐ 病気、治療について簡単に説明する	☐ 療養行動の一部を本人を見守りながら一緒に行うことができる	☐ 療養行動を本人が行うよう、見守る	☐ 本人の言動を見守り、適切な助言をおこなう	☐ 治療選択の際など親の価値を押しつけず考えや意志を聞く	☐ 成人期に通院する病院について本人と相談する	
				☐ 薬であることを伝え飲ませ褒める			☐ 受診日は子ども主体で決められるようサポートする		☐ 成人期に通院する病院について本人と相談する		
							☐ 服薬管理は見守りながら本人主体で行うようサポートする	☐ 進学、就職、結婚、出産など将来について話す機会をつくる			
				☐ 治療や検査をがんばったら褒める	☐ 治療や検査をがんばったら褒める	☐ 病気、治療について説明をする	☐ 本人の自主性をうながす		☐ 本人の将来について相談にのる		
				☐ 同胞と同じように接する	☐ 医療者から病気や治療検査の説明をしてもらう	☐ 本人の困っていることをすくい上げる	☐ 本人を信頼し、一人の人として尊重し接する	☐ 生活全般の自立について準備	☐ 生活全般の自立について準備		
								☐ 医療補助、公的支援の申請などを本人と確認し準備する	☐ 医療補助、公的支援の申請などを本人と準備する		
		☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる	☐ 同胞にも病気をつたえる
	社会とのかかわり	周囲に相談できる	☐ 困り事を支援機関に相談できる	☐ 困り事を支援機関に相談できる	☐ 小学校の選択、情報共有	☐ 小学校との情報共有、協力体制の構築	☐ 小学校との情報共有、協力体制の構築	☐ 中学校との情報共有	☐ 高校との情報共有		
				☐ 困っている事・悩んでいる事を親しい人や医療機関に相談できる	☐ 小学校入学前に健康に関するニーズを医師と確認し教師に伝える		☐ 高校進学前に、健康に関するニーズを医師と確認し、学校に伝える内容を本人と確認する				
		協力者、支援者を探す	☐ 協力者、支援者に相談できる	☐ 保育園(幼稚園)との情報共有	☐ 支援機関、制度の利用	☐ 支援機関、制度の利用	☐ 中学校の選定、情報共有	☐ 支援機関、制度の利用、移行期成人期の情報収集	☐ 成人期の情報収集を本人と行う		
			☐ 支援制度の利用	☐ 協力者、支援者に相談できる			☐ 支援機関,制度の利用		☐ 一人暮らし前に通院する施設を本人、医療者と相談して決める		
				☐ 支援制度の利用							